

Speaker 小松 則登 さん

「それって、文献とかで”ちゃんと”言われてますか？あなたの経験値ですか」とか「どこのサイトに書いてありますか？」という問いかけ率が地域の講演会、ワークショップなどをやっていると言われるようになりました。私としては、文献を例に挙げると顔も、表情も、においも知らない方の話は 50/50 (ゴブゴブ) で、自分にとって「記号接地」していない (by ハルナッド) 言葉は身に着かないな・・・と思っています。きっと私の勉強・探求・検索などが不足しているからだろうと自省していますが、なかなかすすまないです。とは言え、明日も子どもたちが現場には来られるのでわからないことは調べ、くじけそうな時は支えてくれる書に目を通し、先人・友人と話をして準備していく日々です。今回の BOUZ は「セラピーにおける発想、思いつき、着想の出どころとは？」というワードを選んでみました。これ（発想など）はどこから来たのだろうか、ということは人に説明する時にはがんばって言語化しますが、それに対しては前出のような”質問返し”も来るので「どっかに書いてあったこと」ではないことが多く、文献やサイト情報を期待されておられる方をがっかりさせています。まだルーキーイヤーの頃、その時代のスペシャリストに「見てわからんものは聴いてもわからん」と指導を受けたことがありましたが、令和ではこの「モノイイ」は通用しません、アウトです・・・がその時は「見る」ことで考えなければ！と思い、子どもを見ること、セラピーを見ることに注力していました、そして今もそうしています。実際、「どこから来るのか」については、このテーマを黒澤さんと話した（話したといっても、LINE で 3 ターンくらいですが）時から考えていますがまだパワポ 1 枚もできていません。しかし、まあ、いつも通りですがお子さんとのセッション映像の手を借りながら考えうることを考え、出来合いの言葉をコロコロしながらお話できたらなあ、と考えています。何よりも世界の「クロサワ」さんと BOUZ でセッションできることが楽しみです！